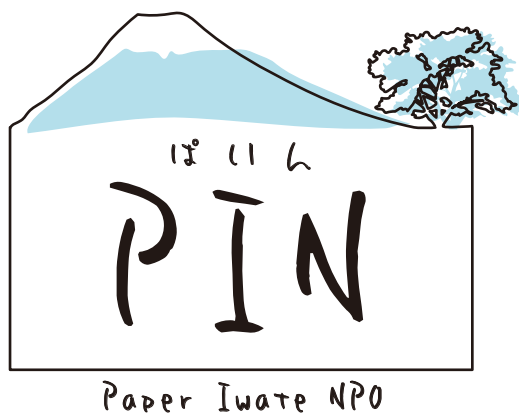


2022 vol.2



NPOのはじめの一步
活動を起こす
力を知ろう

連携事例集
『NPO×行政』『NPO×企業』
ユース世代に聴いてみよう
岩手県からのお知らせ
岩手県社会福祉協議会
ボランティア・市民活動センター
からのお知らせ
活動から生まれたもの紹介
『番屋の塩』

きらりんきっず
「ファミリーフェス 2022」
の様子

はじめの一步!
「活動を起こす
力を知ろう」
start!

仲間とグループを立ちあげたり、活動を作り上げたり…。自ら動く魅力を経験談と共にご紹介します。



NPO 法人きらりんきっず

代表の伊藤昌子さんに、これまでの歩みと想いを伺いました。

親子の居場所っていいな という想いからスタート

陸前高田市に4か所ある子育て支援センターのうち唯一、NPOが運営しているのが「おやこの広場きらりんきっず」その運営を担っているのがNPO法人きらりんきっずです。2010年に駅前通り商店街にあった空き店舗をリフォームしてこの場所は開かれました。その原点は、NPO法人きらりんきっずの代表である伊藤さん自身が子育ての際に感じた「親子の居場所っていいな」との想いでした。

親子教室の体験から

伊藤さん自身、初の子育てには余裕がなかったとのこと。結婚して環境が変わり、初めての子育てに戸惑う日々、そんな時に参加した陸前高田市主催の親子教室で人生観が変わる貴重な体験をしたそうです。自分の時間を持てる幸せ、先輩ママからの学び、そしてその間ママと離れて頑張る子

どもの姿がより愛おしく感じられました。

その経験から、自身も託児ボランティアとして参加するようになり、その後ママ友と結成したサークルで子育て支援活動が始まりました。当時は全てがボランティア。伊藤さんは「この時期の経験が大きかった。子連れでも資金がなくても工夫しながら楽しめることがわかったし、続けることで達成感も積み重なった」と振り返ります。

背中を押してもらって 活動を拡大

2006年には陸前高田市に隣接する市町で活動する子育て支援団体とともに、「気仙地区子育て支援ネットワーク」として結成し、これまで以上に人のつながりや支援の幅が広がりました。そして2010年、ママ友4人で始めた小さな子育て支援活動は、陸前高田市からの補助事業「おやこの広場きらりんきっず」へととなります。

東日本大震災津波を経て

東日本大震災津波で陸前高



日当たりのよい
明るい施設で
にこにこ

田市は甚大な被害を受けました。「おやこの広場きらりんきっず」も被災しましたが、そのような状況でも「広場にきていたみんなはどうしているかな?こんな時こそ親子の居場所が必要なんじゃないか」と思い、市内最大の避難所、陸前高田市立第一中学校の図書館を借りて活動を再開しました。利用者さんからは、「避難所生活でバラバラになった子育て仲間と再会し、情報交換することで不安の解消にもつながった」との声をいただきました。

親子支援から防災まで

2020年に今の場所(陸前高田市高田町)に本設となりました。

現在、スタッフは8名まで増えました。広場を拠点としながら、「人をつなぐ」「地域とつなぐ」「復興の先の未来に親子をつなげる」を意識して、地域とつながる取組や他団体と連携した各種イベントを行っています。

また、東日本大震災津波で被災した団体として、防災・伝承への取組が必要だと思い、継続的に防災講座も開催しています。親が防災講座を受け

子育てをする人の目線で

ることで、家族に、そして地域に、防災の意識が広がっていくことを目指しています。

伊藤さんに自ら動くことの魅力を伺うと、柔らかな笑顔と共に、「何をしたらもっと良くていけるかを考えることができることです。できることから一歩ずつ活動を積み重ねてきました。どの時代も子育ては大変なので、そこに自分のできることで関わり続けていきたい」と話してくださいました。



他団体と協力した
地域イベント
『ファミリーフェス』

NPO活動交流センター こう使おう!

NPO活動交流センターでは、NPO・ボランティア活動に関する相談業務を行っています。お気軽にセンターへお越しください。電話、メールでの相談もお受けしています。

?

市民団体の
設立・組織運営
について

NPO 法人の
設立申請・運営
について

会計・決算
総会
について

助成金・
補助金情報の
提供

ボランティア
活動について

各種団体との
協働・連携



NPO活動交流センター
TEL: 019-606-1760
MAIL: n-katsu@aiina.jp

岩手県 NPO 活動交流
センター サイト→



A Gathering Space for Mummies & Kids

ホームページ→



facebook→



NPO 法人 きらりんきっず

主たる事務所: 岩手県陸前高田市高田町
設立認証年月日: 2013年12月26日

連携事例集

地域課題の解決や社会貢献のための様々な活動について、NPO 単独で行うのではなく、企業や行政と連携・協働することで新たな成果が生まれています。岩手県内のそんな事例をご紹介します。

事例1

母子の命を一緒に支える



NPO 法人まんまるママいわて代表の佐藤さんは、助産師として関わった赤ちゃん訪問事業や、震災後に妊婦や母

親たちを支援する中で産後ケアの必要性を感じ、2016年に岩手県初の産後ケアハウスを花巻市に開設しました。

NPO × 行政



NPO 法人まんまるママいわて × 花巻市

産後デイサービスの様子

その頃、既に花巻市内の産科は2か所に減り、今後不安を抱える市民の声や、産後ケアの大切さを花巻市に伝え続け、2017年に花巻市の委託事業として、産後ケア事業がスタートしました。

担当の花巻市健康づくり課母子保健係の鎌田さんは「事業を委託することができたのは、実績を持った団体が地域にあったことが嬉しい」と大きな信頼を寄せています。

コロナ禍では、他者との接触に制限がかかり、産後の悩みや家族との関係など、外には相談しにくい課題を自ら抱えてしまっているケースが増えたとのこと。

このような状況下でも、これまでに培った連携体制が力を発揮し、スピード感を持って他の行政サービスにつながることでできているそうです。

行政とNPOが、話し合える環境を一緒に作り上げてきたことで信頼が生まれ、両者の視点で市民に寄り添った事業が行われているのを感じました。



産後ケアとは

出産後の母親は、不安定な時期にも関わらず退院翌日から一人で子育てしなければならない場合や、夜間授乳で睡眠不足が続く神経をすり減らしてしまっていることがあります。そんな母親の心身回復と、育児指導を行うサポートです。

花巻市では、妊娠から出産を切れ目なくサポートする体制が整備されています。



事例2

組織どうしが

ずっとつながっていきけるように



陸と海の自然、そして生き物とのつながりの大切さを伝え、広く関心を持ってもらおう。

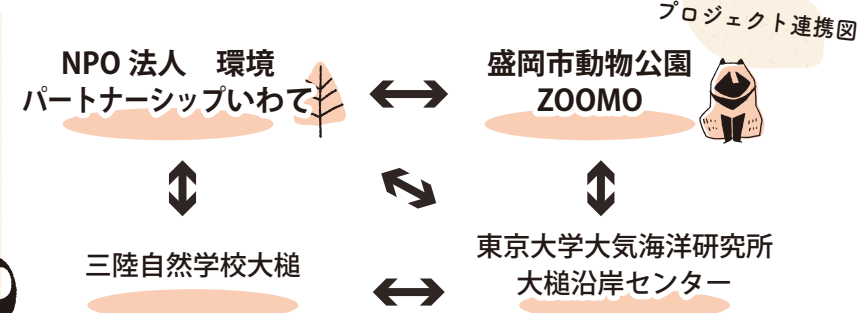
ログラム「森と海をつなぐプロジェクト」に協働で取り組んでいます。

NPO 法人環境パートナーシップいわてと盛岡市動物公園ZOOMOは、岩手県の環境保全、地球温暖化防止、生物多様性保全に向けた、内陸と沿岸を結ぶネットワーク

岩手県から委託を受けた環境パートナーシップいわてが運営する、環境学習交流センター（盛岡市アイーナ5階）では、リニールに向けて現在休園中であるZOOMOの資源

を生かし、はく製や糞の展示の他、ZOOMOからのライブ中継など、環境と動物に関する様々な企画が行われています。これらの事業は、環境パートナーシップいわての皆さんが、「子どもから大人まで楽しむことができるように」と、企画したものです。

これまで組織としてタッグを組んだことはなかった両者ですが、「リニールをきっかけに変わらないといけないという思いがあった」と、ZOOMO広報担当の森敦子さんは言います。都会の動物園に比べて、地方では予算や人員も限られるので、外の組織とつながることは不可欠と感じていたそうです。



NPO 法人 環境パートナーシップいわて × 盛岡市動物公園 ZOOMO (株式会社もりおかパークマネジメント)

環境学習交流センターでの展示
＜内容は適宜入れ替え＞

はじまり

ZOOMOの辻本園長と東京大学大気海洋研究所大槌沿岸センターの青木センター長のつながりから、2021年、環境学習の一環として関係者が集まり、連携に向けた打合せを行いました。これがきっかけとなり「森と海をつなぐプロジェクト」がスタートしました。



Q 関心を持っている方へメッセージを

大学だけでは得られない体験ができます。高齢者の方々のコミュニケーションは、先輩から学びました。興味があれば、是非参加して欲しいです。

北股フレンズ
ツイッター ↓



ユース世代に聴いてみよう

18歳から35歳までのユース世代の活動とインタビューをお届けします。



北股フレンズ

北股フレンズは、奥州市衣川北股地区において、岩手県立大学と北股地区振興会が行った地域協働研究をきっかけに、終了後も学生が継続的に関わることができるよう、2019年に結成されました。その後、大学公認サークルとなり、現在は40名が所属し、月1回のペースで活動しています。

代表の及川さん（3年）、メンバーの山本さん（4年）、高橋さん（3年）、佐々木さん（3年）にお話を伺いました。

Q 具体的な活動内容は？

春は農業用排水路の作業、夏は山ぶどうの剪定やプール清掃、秋は収穫や祭りの手伝い、冬は雪かきや大掃除の手伝いなど、北股地区センターに寄せられた地域ニーズのお手伝いをしています。

Q 活動に参加して感じていることは？

地域の人と話したり、感謝してもらえるとやりがいを感じます。地域に関わることで中山間地域の課題が感じられ、それが自分事になっています。北股の皆さんは課題をプラスに変えるパワーと風土がありますね。

ボランティア保険について

安心してボランティア活動が続けるために、活動中のケガなどに備えて、まずは保険に加入しましょう。

意外と知られていない?! ボランティア保険には2種類あります。

個人で、災害ボランティア活動に参加する予定です。泥出しボランティアをするのだけれど、何か保険に入ったほうがいいのか…?



ボランティアグループのメンバーと一緒に、地域の子育て中の親子を招いて、「子育てサロン」を開きます。行事参加者のケガに備えたいな!



その1

ボランティア活動保険

日本国内のボランティア活動中におこる様々な事故に対する備えとして、無償で活動するボランティアの方々のために発足した保険制度です。

特徴

- ボランティア個人等の損害賠償責任も補償
- 往復途上の事故も補償
- 熱中症、食中毒も補償
- 新型コロナウイルス感染症を含む「特定感染症」も補償

保険料

1名・年間

基本プラン	350円
天災・地震補償プラン※	500円
新設 特定感染症重点プラン	550円

※基本プラン+地震・噴火・津波による死傷

「特定感染症重点プラン」について
新型コロナウイルス感染症を含む「特定感染症」について、「基本プラン」「天災・地震補償プラン」では、補償開始日から10日以内に発病した場合は補償対象外となりますが、「特定感染症重点プラン」では、補償開始日から補償の対象となります。

保険料は令和4年度の料金を記載しています

- * ボランティア保険は、最寄りの社会福祉協議会で加入できます。
- * 加入手続完了日の翌日午前0時から補償開始です。お早めにお申込みを!
- * 社会福祉協議会が関わらないイベントでも加入可能です。保険の詳細は、福祉保険サービスホームページをご覧ください。



福祉保険サービス
ホームページ



ずっぱりボランティアいわてサイト

その2

ボランティア行事用保険

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行う各種事業における様々な事故に対する備えとして発足した保険制度です。

特徴

- 行事主催者及び共催者の損害賠償責任も補償
- 往復途上の事故も補償 A・Bプランのみ
- 熱中症、食中毒も補償
- 宿泊を伴う行事にも対応 Bプランのみ

保険料 1日1名につき

Aプラン 宿泊を伴わない、かつ参加者が事前に特定できる行事。

A1	28円	A2	126円	A3	248円
----	-----	----	------	----	------

※行事内容により A1・A2・A3 と分かりますのでご注意ください。

Bプラン 宿泊を伴う行事

1泊2日	241円	3泊4日	300円
2泊3日	295円	4泊5日	354円

Cプラン 宿泊を伴わない、かつ参加者が事前に特定できないA1区分行事。

28円

Aプラン・Cプランは、20名分の保険料をお支払いいただくことで、20名未満でもご加入いただけます。

認定NPO法人取得・更新情報

新たに認定特定非営利活動法人として認定された法人をご紹介します!



特定非営利活動法人キツッキネットワーク岩手

「世代をつなぐ 老いても、病んでも、自分らしく心豊かに」
「知育・徳育・体育・食育・美育」の健寿五育によるスマイル☆サイクル

高齢者の支援に関すること、正しい食生活のあり方に関すること、青少年の健全育成に係る支援等、各種事業を通して社会福祉の増進を図る活動を幅広く行っております。

今後一層認定NPO法人としての信頼と重責を認識しつつ、関係行政機関等との連携を図りながら、会員および一般県民の皆様のご支援のもと“これまでの10年、これからの5年を視野に入れて”さらなる活動を推進して参りたいと思います。

理事長 五十嵐 正
岩手県盛岡市箱清水1-15-2
認定NPO法人
キツッキネットワーク岩手サイト→



2013年10月10日……任意団体として活動開始
2015年12月1日……NPO法人格を取得
2017年9月27日……認定特定非営利活動法人に認定される
2022年9月2日……認定特定非営利活動法人の更新認定

認定NPO法人を目指しませんか?

認定NPO法人(特例認定NPO法人)は、一定の基準を満たしているNPO法人として税制上の優遇措置が受けられます。詳しくは下記問合せ先まで。

岩手県若者女性協働推進室 認定NPO法人専門員 019-629-5199

NPO法人の申請・届出等の手続が

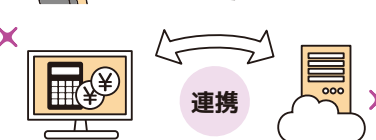
オンラインで行えるようになります!

内閣府では、NPO法人(法人設立希望者を含む)が行う手続をオンライン化するシステム(ウェブ報告システム)の構築を進めており、令和5年3月からシステムの運用が始まる予定です。

! NPO法人の事務所等から直接、申請・届出等の手続が行えます。



! 活動計算書などの財務諸表の自動計算が行えるほか、外部の会計ソフトと連携して、効率よく財務諸表を作成することができます。



! 申請・届出等を行った情報がシステム内に保存され、履歴の管理が行えます。この機能により、事業報告書等の提出や役員変更等の際に、前年度や変更前の書類を確認しながら、新たな書類の作成が行えます。

! 支援者(行政書士、中間支援団体)にシステムの利用アカウントを付与することで、申請・届出等の手続の支援を効率的に受けることができます。



詳細はこちら

詳細については、県ホームページ等でお知らせしますのでご覧ください。

岩手県サイト
NPO法人の各種手続の
オンライン化について→



活動から 生まれたもの 紹介

活動の中から生まれた様々な商品があります。そのストーリーや作る側の想いをご紹介します。興味が湧いたらぜひ実物を見に出かけてみてください！



お求めはこちら！

- ◆ 番屋の塩【通販】サイト
- ◆ 道の駅たのはた
- ◆ 道の駅くじ産直まちなか
- ◆ 道の駅いわいずみ ほか



2003年より活動。
地域の自然や文化を伝える「番屋エコツーリズム」という考えのもと、様々な自然体験プログラムを提供している。

NPO 法人
体験村・たのはたネットワーク
岩手県下閉伊郡田野畑村北山 129-10
TEL 0194-37-1211 FAX 0194-33-3355
北山崎ビクターセンター内



Facebook

「番屋の塩」 北三陸の風土と共に

田野畑村の机浜番屋群で作られている番屋の塩。甘味を感じる味わいが魅力で料理に使いやすいほか、北三陸の歴史文化と併せて「知って食べる」ことがお薦めの商品です。

田野畑村では机浜をはじめ、各浜で昔から昭和初期まで塩づくりが営まれていました。NPO 法人体験村・たのはたネットワークは、2008 年頃から地域の方々と一緒に、塩づくりの復活に取り組み始めました。その過程で、未だ全貌が判明していない、田野畑村と内陸を結ぶ「塩の道」のことや、塩を牛の背に載せて運ぶ道中に塩からしたたる「にがり」を売り歩いたことで豆腐文化が広がったことも学んだそうです。

北三陸への関心、そして、漁村の暮らしや文化を知ることにつながって欲しいとの思いから、塩づくりの体験プログラムも提供されています。

SNS を活用した情報発信講座

～魅力的で効果的な情報発信とは～

12月23日(金)10:00～12:00

講師：岡田彩氏（東北大学大学院 情報科学研究科 准教授）

対象：岩手県内の NPO・市民活動団体等

会場：NPO 活動交流センターまたはオンライン 定員：20 名（オンライン含まず）

お問合せ / お申込み：NPO 活動交流センター TEL:019-606-1760 E-mail:n-katsu@aiina.jp

NPO 活動交流センターでは、NPO や市民活動を推進するための各種講座を開催しています。詳細は HP をご覧ください。

NPO 活動交流
センターからの
お知らせ



編集後記

第2号、いかがでしたか？各コーナーの取材でご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。お話を伺う楽しさと原稿にする難しさは後者が何倍も大きく、試行錯誤しながらの制作ですが、具体的な取組を通じて、私自身も人・団体・地域の魅力に触れさせてもらっています。記事を通じて誰かの「はじめの一步」につながるものができたら嬉しいです。今後もアンテナを立てて県内の様々な活動をご紹介できるように頑張ります。

今年度は次回第3号が最終回となります。どうぞお楽しみに！

(N.S.)